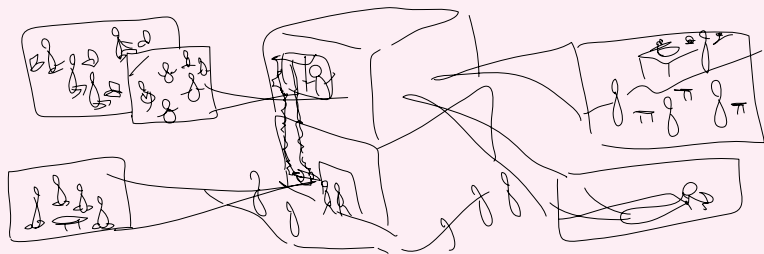


文化の素材をつくり 資源を見いだす



はっちとは

活動全体の運営拠点としてオープンした小さな一軒家で、プロジェクトの運営メンバーや企画に携わる様々な関係者が常に出入りしていた。個人的な繋がりを通じて人が人を呼び込むことで次第に“みんなのお茶の間”となっていた「はっち」は、時に冒険への〈搭乗口〉であり、文化企画が一時的に置かれる〈窓口〉であり、〈みなしごハッチ?が集う家〉のようでもあった。

はっちの魅力

①みんなのお茶の間

近所の人、地域の人、学生や社会人、研究者、主婦……。そういった社会的な立場で言えば様々な立場の人が関わっていたが、イベントに参加しにくというよりは、日常の延長線上で立場や役割のない“個人”として出入りできる場所であったことが特色であり、“個人”として振る舞える数少ない社会的な場としての需要を満たしていた。「はっち」には、沢山の相談が寄せられ、個人的な告白をしていく人も少なくなかった。

②運営チームの作業場

「ぐるヤミ」の運営チームがミーティングや作業をしていることで、何か常に動いている現場感がそこにはあった。作業の手伝いを通じて会話が引き出されたり、日々の小さなハプニングと一緒に乗り越えることで、訪れる人々の間にささやかなつながりができていった。

③「芸術っ子」のサロン

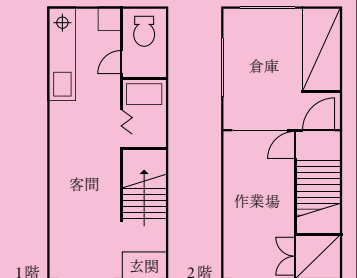
表現することに関心があるがやりたいことが「アート」では無いような気がして道に迷う人や、表現したいかどうかわからないまま“何かしたい”という熱い想いを内に抱えた人、社会人として充実しているが何か足りなくて寄り添えない人など、何とも問題として取り上げづらい、あるいは自分の問題なのか何なのかも判断できずに誰かとの対話を渴望した人が集う場であった。

④まちの中の「？」

まちの人にとって、何がしたいのかよくわからないが何かいつも一生懸命やっている不思議な人たち、要領がいいとは思えずつい口を出したくなるような世話の焼ける人たちとして認識されていたかもしれない。でも、緩やかで風通しのよい空気感がまちの人を誘い込むこともあった。近所の人から手作りのお新香や使わなくなった家具をいただくこともあった。

はっちの空間

混在する関係性：「はっち」の1階は主に客間として機能し、2階は作業場・倉庫として機能した。狭いながらも、互いの気配が音や行き来を通じて伝わり、相乗効果的に空気が通っていた。また、1階の玄関付近は、通りすがりの人が中を覗き込んだり、掃除ながら近所の人と挨拶をしたりする場だった。多様な場が同時に混在する「はっち」は、柔軟なやりとりを生み出し、創造力を豊かにした。



レ
シ
ピ

ぬか床型

はっち

日々の手入れで文化の底上げをはかる

必要なもの

◆場所

①空き部屋or空き家
3人集えば十分に空間が埋まる広さ。ときおり12人ほどが集えるときよりいい

◆人

①主人3人(運営チーム)
それぞれが異なるリズムで通う
「はっち」に通うことをそれぞれの人が習慣の一部にする

②出入りする人
(例)

- ・場所の持ち主：ほとんどみかけない
- ・主人A：いつもいる
- ・主人B：ほとんどのいる
- ・主人C：よく見かける
- ・主人Aの仲間：Aの作業を手伝っている
- ・主人Bの友人：Bに会いに来る
- ・主人Cに招かれた人
- ・主人A、B、あるいはCを見守っている人
- ・通りすぎる人
- ・近所の人

◆道具

①お茶セット(ちゃぶ台、湯のみなど)
湯のみは、わんぐりとしたものを選ぶとお

椀代わりにもなり、収納の少ない狭いスペースだと便利

②落書き/工作セット(メモ用紙、ペン、はさみ、マスキングテープなど)
話しながら書いたメモや、伝言、暇つぶしに描いた落書きなどを、壁に貼るため

③掃除道具(ほうき、ちりとり、雑巾など)
玄関付近の掃き掃除はまちの人との挨拶や会話のきっかけをつくる。掃除という目的がはっきりとしていて協力しやすい共同作業は、互いを知るための何気ないコミュニケーションを誘発する

④調理道具(台所、火が使える場所があるとよりよい)
料理の作業は創作活動に類似点が多いので、調理を介しての会話や共同作業の時に垣間見える価値観の違いや互いの文化背景は「はっち」の重要な資源となる



つくりかた

◆プロセス

- ①場所を探す
- ②場所を借りる
- ③運営チームが通う
- ④次に記す振る舞いを「はっち」での習慣とし、繰り返し実行する

【集める】
手伝いに呼ばれた人、招かれてきた人、メンバーに会いにきた人、「はっち」に興味を持ってきた人、気になって入ってきた人、異なるモチベーションを持った人が「はっち」ではち合わせるように、「集い」を企てる

【作業】
仕事や料理、片付け、メモ、どの作業も場の栄養になるので、落ち着いて丁寧におこなう

【手入れ】
整理したり掃除したり、より居心地のよい空間になるよう少しずつ更新する

【呼ぶ】
これにはcallとnameの二つの意味がある。call はあの人来て欲しいな、こんな人来て欲しいな、そんなふうに見える人に想いを馳せること。nameは「はっち」に出入りする人が、肩書きや役割りを一旦忘れてリラックスできるように、その人の新しい呼び名をつけて呼ぶこと。これは頻繁に変わっても、他の人が別の呼び名で呼んでも構わない。呼ぶことが大事

【待つ】
人の出入りがなときは、より丁寧に過ぎて、人が訪れた時に魅力的な会話ができるように備える

【痕跡を残す】
その時には何気ないメモでも、その場の空気を記録したメモは、時間が経った時、あるいはその場に居合わせなかった人にとっては、想像力をかき立てる魅力的なアイテムになることがある。だから、なんでもかんでも壁にはったり飾ったりして、ふとした瞬間に誰かや自分をインスパイアしてくれるものとして残しておく

